資料２

第２回 大牟田・荒尾市地域公共交通合同協議会 議事録要旨

日時：平成 30 年２月 23 日（金）午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
場所：荒尾市役所　41 号会議室
出席者：大牟田・荒尾市地域公共交通合同協議会委員　14 名（内代理出席者　２名）
※別紙出席者名簿のとおり
【事務局】
（大牟田市　都市整備部国県道路対策室）末藤部長、米﨑調整監、松井室長、伊東主査、壇
（荒尾市　政策企画課）石川部長、宮脇課長、田中課長補佐兼政策経営室長、平山

１．開会

宮脇課長（荒尾市）が、開会を宣言し、資料の確認を行った後、欠席委員及び代理出席者の紹介を行った。その後、指名により荒尾市副市長である田上委員が議長に就任し、就任に当たり、田上議長からあいさつがなされた。

・２回目となる今回の会議については、荒尾市側から議長を出させていただいた。
・両市は県境をまたぐ地域であり、生活圏・経済圏を一帯としていることからも、広域的な視点で地域公共交通のあり方を考えることは非常に意義深いと考えている。
・11 月に開催した前回会議では、両市に共通する課題等を明らかにするとともに、計画の基本的な方針等について確認いただいた。
・本日は、両市で取りまとめられた計画の体系について確認するとともに、計画に基づき両市で連携して実施する取組みについて意見交換をしていただきたい。

２．議事

（１）第１回会議の議事録要旨について

事務局（田中課長補佐兼室長：荒尾市）が、資料１に基づき、第１回会議の議事録要旨について説明を行った。

質問や意見等は無かった。

（２）両市で連携して取り組む具体的な施策について

事務局（田中課長補佐兼室長：荒尾市）が、資料 2-1 に基づき両市の地域公共交通網形成計画体系図について説明を行った後、事務局（平山：荒尾市）が、資料 2-２及び参考資料１に基づき、両市で連携して取り組む具体的な施策について説明を行った。

協議の結果、承認された。

《主な質問・意見など》

○　・両市計画の整合を図るため、指標・数値目標を合わせることを提案した。輸送人員と便数は双方大事な指標であるため、どちらの指標も記載いただきたいと考えている。なお、指標となっている西鉄バスグリーンランド線については、スペースワールドの閉館を控え需要が伸びた影響を受け、利用者数が若干減少

していることを承知いただきたい。

○　・鉄道の本数を指標として掲げることについて、JR への要望以外で、自治体が主体的に行う実施事業が何かあるのかどうか疑問である。利用促進を行うのであれば、利用者数という指標を設定することで評価ができると思われるため、鉄道についても利用者数を指標として設定できないか検討いただきたい。

事務局　→大牟田駅～荒尾駅間の利用者数だけを計るのは難しいため、それぞれの駅の利用者数などを指標とし、JR とも協議しながら数値を把握したい。

○　・JR においては、両駅間の利用者数などのデータは所有しているのか。

→正確な数字ではないが、自動改札の利用状況から利用者数は把握できる。

→IC カードの利用であれば、利用区間のデータは取れるのではないか。

→ある程度の状況は把握できる。

→JR が所有するデータを活用できれば、今後実施する各施策の評価に繋がると思われるため、協力をお願いしたい。

→会社としては定期的なタイミングで公表しており、協議会のタイミングでデータを出せるかどうかは検討したい。

○　・便数を指標として設定することについて、交通事業者としてはどのように受け止めているのか。経営状況によっては便数を減らさざるを得なくなることもあると思うが、そのような会社側で判断していく内容を、地域の計画の指標として定めることには違和感がある。

→社内でもその議論をしたところであり、経営状況によっては便数を減らさざるを得ないこともあると考えているが、仮にそのような場合にどうするかについては、市と議論している状況である。ただし、今の状況が大きく変わらなければ、努力目標としたいと考えている。

→列車の本数は、毎年ダイヤ改正をしており、利用状況を踏まえて設定している。そのため、目標となるのは、本数ではなく人員が望ましいものと考えている。

○　・世界遺産関連施設を周遊する移動手段の確保に関連し、民間事業者による観光タクシーの実績はどの程度か。

事務局　→利用状況については、熊本地震の影響で近年状況が悪かったとは聞いているが、10 人程度の規模のグループに利用されていると聞いている。具体的な利用者数は把握していない。

○　・週末のみ運行していた周遊バスの利用実績が記載されているが、当時、荒尾駅長をしており、利用が少ないことが気になっていた。世界遺産関連施設を周遊するだけではニーズが限られるため、郷土料理などの食事や体験型のプランなどと組み合わせて商品化するとともに、メディアを活用しながら幅広く PR する必要があると考えている。

○　・昨年度、福岡県が実施した訪日外国人の鉄道駅からの二次交通アクセスに関する調査では、既存のバス路線が観光に適していないとの課題が出た。問題点は把握しているので、その結果を活用することは可能である。ターゲットを国内向けにするのか訪日外国人向けにするのかで、対応を検討する余地がある。

○　・世界遺産登録直後とは明らかに来訪者の傾向が異なっている。当時から色々な

企画切符等を作ってきたが、だんだんと売れ行きが落ちてきている。なかなか認知されないという課題があるため、自治体にも協力いただいて PR を行っていきたい。

○ ・地域間乗継拠点における接続改善の検討に当たり、路線バスと鉄道の接続に関しての課題は、荒尾駅がバリアフリー化されていないことだと思う。現状のままでは、情報発信を強化したところで、高齢者等に使ってもらうのは難しいと思う。ダイヤの接続を改善することも必要だが、荒尾駅の設備の改善については、荒尾市とも連携して早急に取り組む課題だと考えている。

○ ・イオンモール大牟田の場所が異なっているので訂正いただきたい。西鉄バスの接続に対する考え方については、大牟田駅での西鉄電車（特急）との接続を重視しており、倉掛線等も同じような考えである。路線によっては、新栄町駅での接続を重視しているものもある。そのような中、全てのニーズに対応することは非常に難しく、倉掛バス停での接続を重視すると電車への接続が悪くなってくるため、取捨選択が必要だと考えている。

○ ・大牟田駅の東口は、JR の改札を出てすぐの所にバス停があるので案内がしやすいが、西口からはバス停までも距離があり、案内も少ないという課題がある。コンコースで情報発信を強化することを検討している。

○ ・路線バスから JR への乗継ぎを重視しているが、便数が少ないため、全てのニーズに答えるのは難しく、そのためにも乗務員の確保が必要となってくる。以前と比較すると乗務員が集まりつつあるが、引き続き経営資源の確保と接続の改善に取り組んでいく。

○ ・両市間の移動について、幹線を鉄道にするのか路線バスにするのか、乗継ぎの組合せも含め、難しいというのが感想である。利用者としては利便性が高いのが一番だと思うが、両市とも持続可能な公共交通を作るという方針を立てているので、今後、どの路線を幹線に設定するのかという検討が重要になると思う。

○ ・２回に亘り議論を行うことができ、有意義であった。今後、具体的な実施に移行する中で、より深い議論に展開していくものと思う。人口が減少する中で利用者を増やすということは簡単でないが、一方で、高齢化が進行する中であるので、公共交通を持続可能なものにする必要がある。また、両市が有する資源として世界遺産関連施設があるが、観光資源としてはまだ課題もあり、移動手段についての検討も必要であると思った。地域公共交通の活性化に向けた明確な対策がある訳ではないが、地域にとっては、公共交通はなくてはならないものであるため、地域を良くするため、それぞれの立場で努力していきたい。今後とも両市の公共交通政策についてご理解とご協力をお願いしたい。

３．閉会

宮脇課長（荒尾市）が、両市で策定した計画の進捗管理についてはそれぞれの地域公共交通活性化協議会で行うこととし、両市で連携を進めるに当たり、協議・調整が必要な案件が生じた場合に、必要に応じ本協議会を開催する旨説明した後、閉会を宣言した。